

# 豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.34)

## 1. 豊田PCB廃棄物処理施設の操業状況について

1月のコンデンサとトランスに係る操業実績は、下表のとおりです。

昨年12月18日から1月3日までの定期点検後、4日から動作確認をしながら操業していました。しかし、14日夜に真空加熱炉の冷却器に不具合が発生したため、抜油・解体エリア、洗浄エリア内の設備を全て停止しています。

このため、前月と比べて受入台数、抜油解体台数ともに減少しました。

現在、不具合の原因究明及び復旧対策、関連する設備の安全確認のため、調査を継続しています。

なお、調査は安全第一に考えて確実に進めて行く所存です。

### 【19年1月の操業実績】

種 別	受入台数	抜油・解体台数
コンデンサ	173 台	120 台
大型トランス	2 台	1 台
小型トランス	11 台	4 台
車載型トランス	1 台	1 台

※ 一時保管してから計画的に処理ラインに投入するので、受入台数と抜油・解体台数に差が生じます。



不具合が発生した冷却器の確認



冷却器の取り外し(この後詳細調査へ)

## 2. PCB廃棄物の2月受入計画

2月の受入れは、設備の不具合対応により、豊田市内の1保管事業者からコンデンサ21台としています(右表参照)。

2月受入予定であった保管事業者をはじめ、多くの皆様にご迷惑・ご心配をおかけしております。

設備を復旧し、施設の安全を確認した後、順次受入れを開始する予定です。ご理解をお願いします。

### 【19年2月の受入計画】

種 別	受入予定台数
コンデンサ	21
大型トランス	0
小型トランス	0
車載型トランス	0

## 3. 卒業分析の確認について



弊社施設内における分析作業

PCB廃棄物の無害化処理の完了は、各部材ごとに国が定めた分析方法で確認します。全ての部材について、分析結果が基準値以下であることを確認し、無害化処理を完了します。

豊田PCB廃棄物処理施設では、この卒業分析が正確であるかを検証するため、外部分析機関の結果と比較し、定期的に確認しています。

昨年12月の確認では、外部分析機関が出した分析結果と所内分析結果は共に基準値以下であり、卒業分析に問題がないことを確認しました。

## 4. 設備と作業の紹介(トランス抜油・解体ライン)

トランス類の抜油・解体ライン(以下、「解体ライン」という)は、大型トランス解体ラインと小型トランス解体ラインに分かれています。

おおむね1.6トンを超える大きなトランスは大型解体ラインで、それより小さいトランスは小型解体ラインで処理します。

トランス抜油・解体ラインの作業工程は、大型・小型とも基本的に下図のとおりです。相違点は、小型解体ラインでは作業員が遮蔽フード外で遠隔操作を行い自動搬送しますが、大型解体ラインでは作業員が遮蔽フード内でクレーンの玉がけ等の準備作業を行います。



大型トランスの例



遠隔操作による小型トランス解体作業

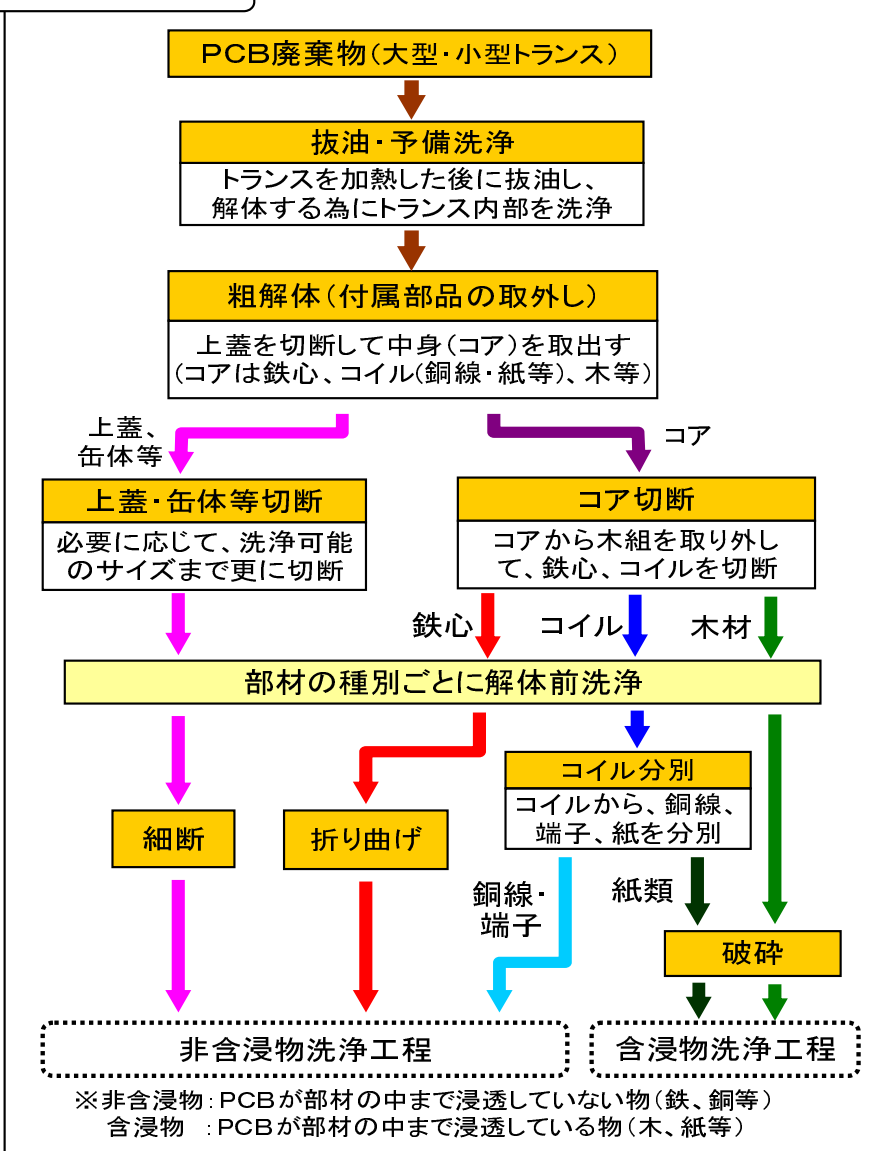


取り出された大型トランスのコア



上蓋切断された缶体

### 処理工程概要図



### 解体グループ トランス班長から一言

大型トランスの重量は最大で12トンあり、また多量のPCB油を含んでいるため、作業時の事故として①重量物の運搬による事故、②PCBの漏洩・暴露事故、③手作業解体時の怪我等が想定されます。

このため作業員は、保護具の着用はもちろんのこと、作業時にはお互いに声を掛け合って安全確認を行っています。また、作業前ミーティングで事前の指示・連絡、設備使用前の点検、作業後には反省報告を毎日行い、事故防止の徹底を図っています。

### 連絡先

日本環境安全事業株式会社(JESCO)

(連絡先) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>